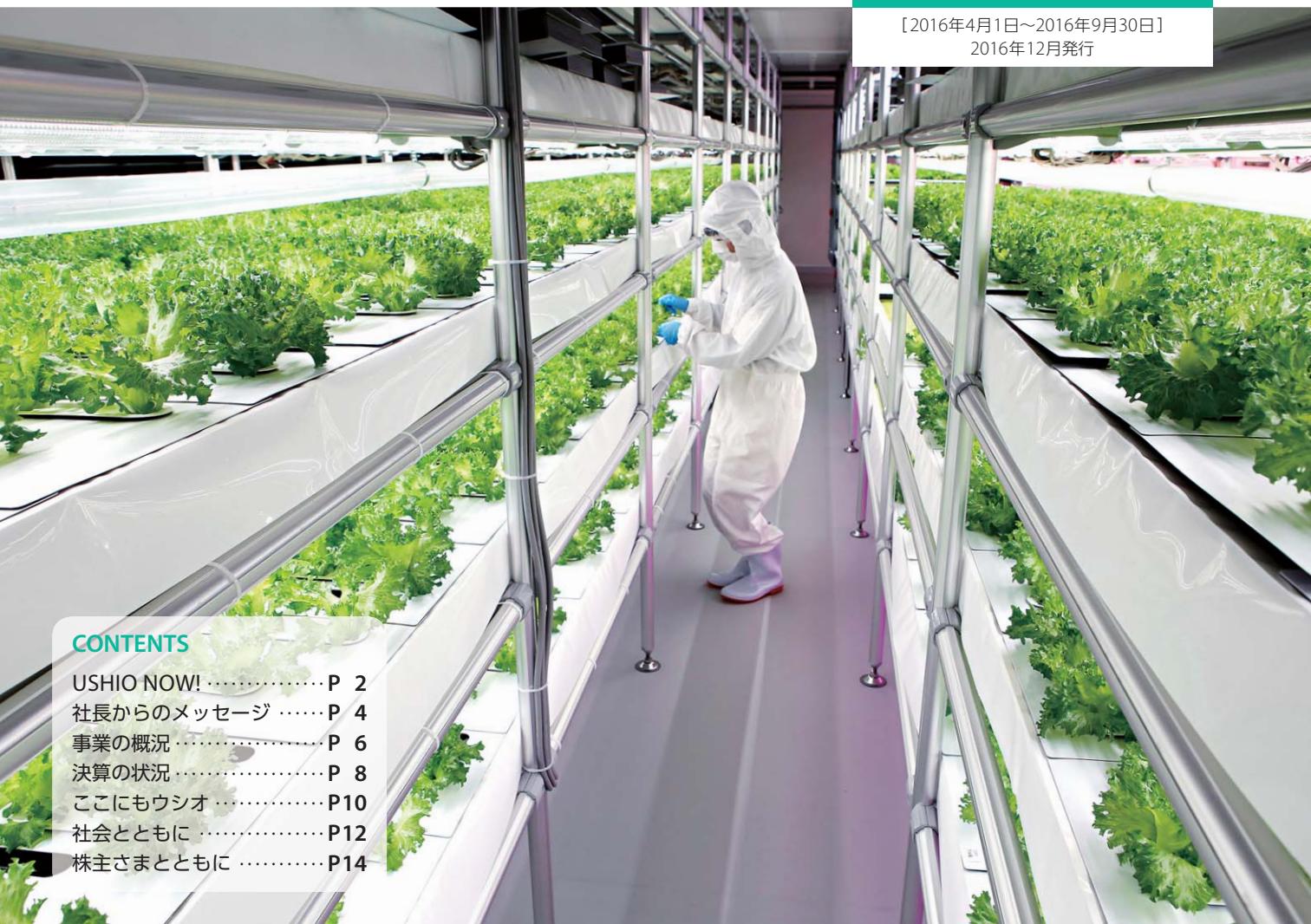


[2016年4月1日~2016年9月30日]
2016年12月発行



CONTENTS

USHIO NOW!	P 2
社長からのメッセージ	P 4
事業の概況	P 6
決算の状況	P 8
ここにもウシオ	P10
社会とともに	P12
株主さまとともに	P14

USHIO NOW! ウシオ電機の今

■ ウシオとは

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業」へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェアNo.1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

■ ウシオのマーケット

Electronics

半導体、フラットパネル、精密機器、電子部品、光化学、印刷、産業機器など

Life Science

医療、自然環境、農業、海洋／漁業、セキュリティ、エネルギー、宇宙開発など

Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、バーチャルリアリティ（VR）／シミュレーション、監視／制御用映像表示システム、プロジェクター用光源、一般／商業施設用照明、景観照明・演出、ステージ／スタジオ照明・演出、オフィス・ドキュメント用光源など

業績ハイライト (2016年4月1日～2016年9月30日)



※1 2016年7月29日付で通期業績予想の下方修正を行っています。

■ 光半導体(LED・半導体レーザー)の強化

～ウシオオプトセミコンダクターとウシオエピテックスの事業統合が完了～

ウシオオプトセミコンダクターとウシオエピテックスの事業統合が2016年7月1日付で完了しました。

ウシオオプトセミコンダクターの半導体レーザー事業に、ウシオエピテックスのLED事業を統合することで、ウシオグループにおける光半導体ビジネスの効率化を図るとともに、多様化する経営環境に迅速かつ的確に対応し、さらなるサービスの向上に努めます。

ウシオグループは今後も、ランプやLED、半導体レーザーといった多彩な光源ラインナップを通して、

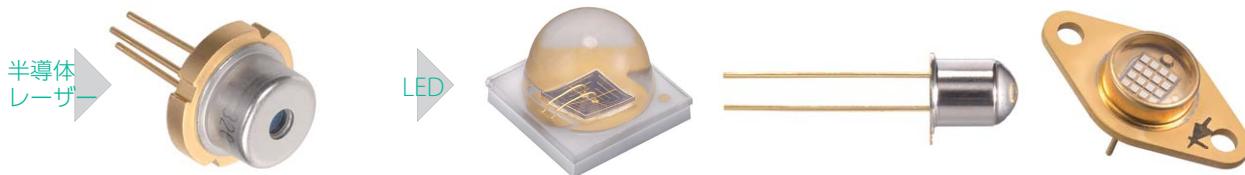
お客さまに最適な光ソリューションをご提案していきます。

【ウシオオプトセミコンダクター】

2014年7月設立。ウシオ電機の100%子会社。日本オクラロのLED事業ならびに赤色、紫色および赤外レーザーダイオード事業を承継。

【ウシオエピテックス】

1989年7月設立。2015年6月にエピテックスからウシオエピテックスへ社名変更。カスタムLED、フォトセンサーの製造販売。



【装置事業】

光学装置は堅調に推移したものの、映像装置が円高影響に加えて競争激化の影響を受けたことにより、装置事業は減収減益となりました。

2015.9 ▶ 2016.9*3

売上高*2

479億円 ▶ **452**億円 ▼

【光源事業】

主要マーケットにおいてリプレイス需要は増加し、また製品シェアは維持しているものの、円高の影響を受けたことにより、減収減益となりました。

2015.9 ▶ 2016.9*3

391億円 ▶ **359**億円 ▼

【その他】

金型監視装置の販売が拡大しましたが、前年同期に販売実績がある食品包装成形機の減少を上回るまでには至らず、減収減益となりました。

2015.9 ▶ 2016.9*3

15億円 ▶ **13**億円 ▼

セグメント
利益

5億円 ▶ **11**億円 ▼

59億円 ▶ **40**億円 ▼

0.27億円 ▶ **0.02**億円 ▼

※2 外部顧客への売上高を記載しています。 ※3 第2四半期累計

社長からのメッセージ



2017年3月期第2四半期の業績と通期の見通し

2017年3月期第2四半期(上期)は、期初想定以上に為替が円高に推移したことや、映像装置における事業環境の悪化などにより厳しい業況となりました。

その結果、上期の売上高は前年同期比6.9%減の825億2千万円、営業利益は同52.0%減の31億3千9百万円、経常利益は同59.3%減の30億8千2百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同66.1%減の18億5千1百万円と減収減益となりました。なお、第1四半期決算時点で想定以上に業績の低迷がみられたことから、不本意ながら2016年7月29日付で計画値を下方修正しましたが、映像装置事業の業績改善策が順調に進み、上期は計画値を上回っての着地となりました。

2017年3月期の通期計画では、売上高1,700億円、営業利益90億円、経常利益100億円、親会社株主に帰属する当期純利益70億円を据え置きとしています。なお、配当については安定配当の方針に変更はなく、期末の配当は期初通りの26円を計画しています。

映像装置事業における業績改善策の進捗

映像装置事業では、競争激化により、単価の下落と在庫水準の見直しによる低価格販売などを実施したことから収益性が悪化したため、クリスティグループ(クリスティ・デジタル・システムズを中心とするグループ会社)において、「業績改善策」と「市場環境の変化への対応」の各種施策を進めています。

業績への即効性がある「業績改善策」は、通期の販売管理費を約23億円削減することを計画し、上期時点で約100名の人員削減を行いました。その他の経費についても計画通りの削減が進んだことで、クリスティグループの業績は2016年8月より好転しています。同時に、カナダと中国の生産比率の見直しによる生産コストの低減、製品・地域・分野別にビジネスモデルを見直すことによる収益力強化、ウシオの強みであるハイエンドプロジェクターの強化、トータルソリューションビジネス拡大の推進、などの「市場環境の変化への対応」を実施しており、来期以降の業績に効果を見込んでいます。

中でも、ソリューションビジネスは年々ニーズが高まっており、今後さらなる発展を目指しています。一例として、スポーツイベントにおいて映像・画像を多用した演出が人気を集めており、北米のアイスホッケーリンクなどにおける常設のプロジェクションマッピングが人気となっています。コンテンツ、ソフト、ハードとワンストップソリューションを提供できるクリスティグループの優位性を活かし、今後も拡大を目指します。

中期経営計画について

ウシオでは、2019年3月期を最終年度とする中期経営計画のもとで各施策を推進してきました。しかしながら、事業環境の大きな変化に伴い、定量目標である売上高2,300億円、営業利益200億円の達成は困難と判断し、2016年10月31日付で現行の計画を見直すことを発表しました。

中期経営計画の業績目標数値は取り下げとしましたが、定性目標である「新たな成長機会の追求」[ROE8%以上]を目指す姿勢に変更はありません。既存製品の新規分野への展開や、ソリューションビジネスの本格展開、シナジー重視のM&Aなどへの投資を継続することで、来期以降の持続的な成長を目指します。また直近の優先施策としましては、業績対策の着実な実行、通期業績目標の達成に取り組んでいきます。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご理解とご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

事業の概況

装置事業



映像装置

- デジタルシネマプロジェクター (DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム



光学装置

- 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置 (露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- 紫外線治療器など医療機器
- 半導体検査・開発用EUV光源装置

中期基本戦略

映像装置

〈目標〉

トータルソリューションビジネスの拡大

〈施策〉

- ソリューション提供型ビジネスモデルの確立
- 安定収入モデルの確立

光学装置

〈目標〉

経常的な黒字化を目指した構造改革

〈施策〉

グループ戦略の見直し

光源事業



放電ランプ/LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用および産業用光源

ハロゲンランプ

- OA機器
- 照明 (商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)
- 産業用ヒーターランプ

中期基本戦略

〈目標〉

「収益性の維持」と「持続的成長」

〈施策〉

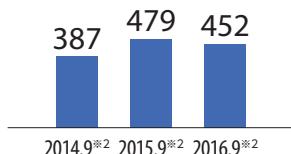
既存分野：シェア維持と製造コスト改善
新規分野：成長市場へ積極的に参入

当第2四半期の業績

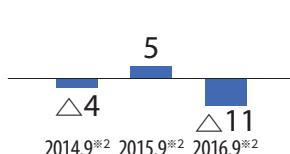
映像装置のうちシネマ分野では、DCPの出荷が新興国を中心に継続しており、販売台数は増加したものの、新興国で需要が拡大している中小型タイプにおいて競争が激化したことによる販売単価の下落がありました。一般映像用装置は、アミューズメントパークやイベント向けプロジェクターの販売が堅調に推移したものの、屋内常設用としてフラットパネルディスプレイなどの浸透が拡大し、中小型プロジェクターを中心に販売が低迷しました。

光学装置は、中国を中心とした中小型液晶パネルおよび有機ELディスプレイ（OLED）の設備投資が続いており、関連装置の販売が増加しました。

売上高*1 (億円)



セグメント利益 (億円)

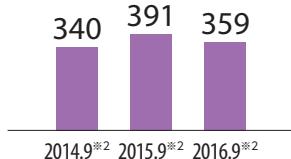


当第2四半期の業績

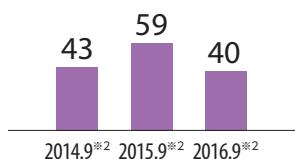
放電ランプのうち、露光用UVランプについては、引き続きユーザーの稼働率は高水準を維持しているものの、為替影響により減収となりました。シネマプロジェクター用クセノンランプは、新興国を中心にシネマスクリーンの新設が続いており需要は増加したものの、価格競争の激化および為替影響により減収となりました。

ハロゲンランプは、OA用途においてハイエンド製品の導入に一服感がでたこと、また新興国の景気低迷による需要減や為替影響により減収となりました。

売上高*1 (億円)



セグメント利益 (億円)



通期の見込み

映像装置では上期に生じた中国市場での事業環境変化が継続する懸念があり、DCPの単価下落による売上減が継続するも、販売台数は計画を上回り推移すると思われます。またクリスティによる業績改善案の実行により利益改善を見込んでいます。

光学装置では、中国液晶投資の継続およびOLEDの需要に支えられて堅調に推移するものと思われます。

(億円)

売上高	2017年 3月期 第2四半期累計	進捗率	2017年 3月期 通期(計画)
	映像装置	310	47.7%
光学装置	134	48.0%	280
照明装置他	8	40.6%	20

通期の見込み

光源事業は、下期は引き続き円高による為替影響を受けつつも、上期の市場環境から大きな変動はないと考えています。

放電ランプのうち、露光用UVランプは、半導体や液晶とともに引き続きユーザーの稼働率は高水準を維持するものと考えています。シネマプロジェクター用クセノンランプは、引き続き価格競争の激化が想定されますが、年末商戦に向けリプレース需要は拡大する見込みです。

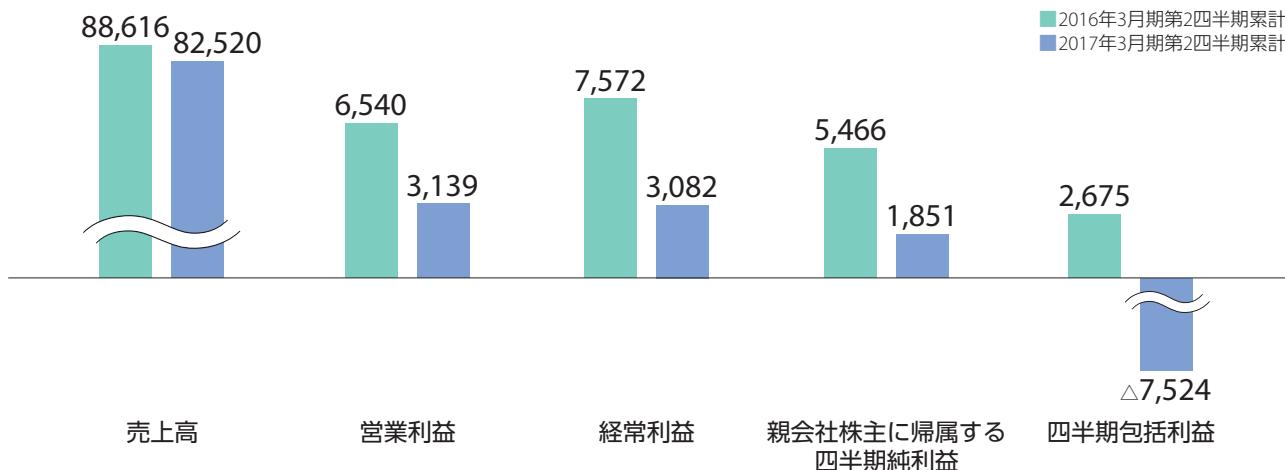
ハロゲンランプは、OA用途において引き続き新興国の景気低迷による需要減の影響を受ける見込みです。

(億円)

売上高	2017年 3月期 第2四半期累計	進捗率	2017年 3月期 通期(計画)
	放電ランプ	294	48.3%
ハロゲンランプ	64	54.0%	120

決算の状況

■ 要約連結損益計算書・包括利益計算書 (百万円)



■ 光源事業においては円高ドル安の進行による為替影響により減収減益となりました。装置事業においても、為替影響に加え、映像装置事業において市場環境の変化による競争激化により減収減益となりました。その結果、**売上高**は前年同期比6.9%減の825億2千万円、**営業利益**は前年同期比52.0%減の31億3千9百万円となりました。

■ **経常利益**は営業利益の減益に加え、為替変動による為替差損の計上などにより前年同期比59.3%減の30億8千2百万円、**親会社株主に帰属する四半期純利益**は前年同期比66.1%減の18億5千1百万円となりました。

■ **資産合計**は、前期末に比べ129億8千8百万円減少し、2,815億3千6百万円となりました。主な減少要因は、商量減少による「受取手形及び売掛金」およびたな卸資産の減少、自己株式購入や配当金支払いなどによる「現金及び預金」の減少です。

■ **負債**は、前期末に比べ8億2千3百万円減少し、824億5百万円となりました。主な減少要因は、商量減少による「支払手形及び買掛金」の減少です。

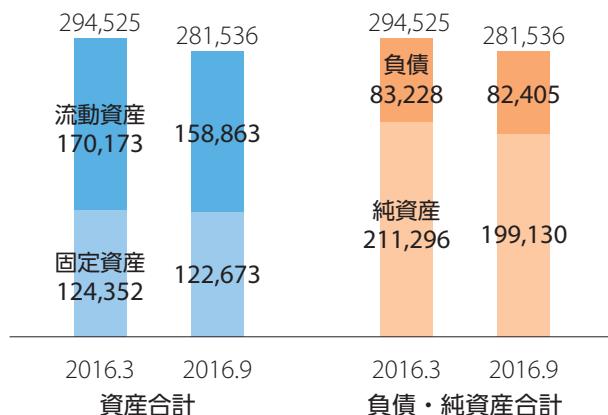
■ **純資産**は、前期末に比べ121億6千5百万円減少し、1,991億3千万円となりました。主な減少要因は、円高による「為替換算調整勘定」の減少、自己株式の取得による「自己株式」の増加および配当金の支払いによる「利益剰余金」の減少です。

■ **営業活動によるキャッシュ・フロー**は、84億5百万円の収入(前年同期は58億9千8百万円の収入)となりました。

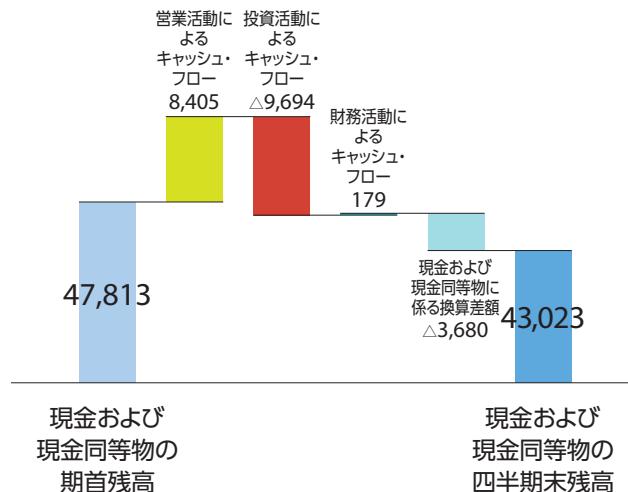
■ **投資活動によるキャッシュ・フロー**は、96億9千4百万円の支出(前年同期は8億6百万円の支出)となりました。

■ **財務活動によるキャッシュ・フロー**は、1億7千9百万円の収入(前年同期は53億8千8百万円の支出)となりました。

要約連結貸借対照表 (百万円)



要約連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



アナリストの視点

2017年3月期上期(4-9月期)の営業利益は前年同期比52%減益の31.3億円となり、第1四半期決算時に下方修正した数値の25億円を上回る着地になった。7-9月期では21.6億円で同49%減益となっている。為替の円高に加えて、映像装置事業の収益悪化が減益決算の主因であり、シネマ、一般映像のいずれも価格競争が強まる状況になっているとみられる。ただ、想定を上回る着地となったことで、価格低下圧力は最悪期を通過した可能性がある。映像装置事業においては、リストラによる固定費削減や生産体制見直し、高付加価値品の強化など構造改革を進めており、下期にはこの効果が顕在化すると

期待される。したがって、業績底打ち感が一段と強まる可能性もあり、10-12月期にはとりわけ同事業の収益性の回復度合いを見極めたい。

アナリスト
佐藤 勝己

株式会社フィスコ
株式チーフアナリスト



ここにもウシオ



食を育むウシオの **光**

1年中安定したおいしさを

イチゴの旬は春。ですが、それ以外の季節でも、ケーキやお菓子などにイチゴが使われています。私たちが1年中食べているイチゴの中には、環境を制御した植物工場で育ったものもあるかもしれません。



ニーズが高まる植物工場

植物工場とは、光や温度、湿度、CO₂濃度など、生育環境を制御することで植物を栽培する屋内生産システムです。レタスやバジル、ほうれん草、パプリカ、イチゴなどのさまざまな野菜や果物が育てられています。温暖化など、地球環境の変化によって食料の安定供給が脅かされる中、安定的かつ安全に作物栽培が可能な「植物工場」は、国内外で今後も成長が期待されています。

植物工場のメリット

- 天候に左右されることなく、周期的・安定的に作物を供給できる
- 環境制御により病害虫の被害が少なく、無農薬または少量の農薬による安全性の向上を可能にする
- 施設内で水を循環させるため節水効果がある
- 少ない敷地面積でも生産性向上が可能
- 栽培者にかかる労力を大幅に削減できる
- 育成の管理で栄養分や品質、味のコントロールも可能に



■ 選ばれるウシオの光製品

植物工場において重要な役割を果たすものの一つが「人工光源」です。植物にとって最適な光は、栽培過程によっても、どんな波長をどのように点灯するのが良いかや、植物の種類、品種、目的（味重視なのか、収穫のサイクルを短くしたいのか、など）によっても異なります。

そこに貢献するのがウシオグループの光製品です。



高圧ナトリウムランプ 1000W

BLV Licht- und Vakuumtechnik社の、野菜や花の育成用としての園芸用途向けダブルエンド仕様の高圧ナトリウムランプは高く評価されています。テキサスA&M大学のマクラー教授の調査により、高圧ナトリウムランプの波長が農作物の光合成に最適（CO₂吸収率が良い）ということが実証されています。また、このランプは寿命まで安定的な照明の出力が可能で、コストパフォーマンスの高さでも人気があります。



日本山村硝子株式会社様 エスベックミック株式会社様 羽田ラボ

ウシオライティングは植物工場向けのLED光源の研究を進め、世界で初めて*イネなどの穀類、果菜類、イモ類、マメ類の栽培が可能なLEDユニットを開発し、販売しています。LEDユニットは光に熱を含まないため、HIDランプ（高圧ナトリウムランプやメタルハライドランプ）による栽培では困難な多段式育成棚の構築を可能にしました。さらに、それぞれのニーズに応えられるよう、波長や強度、点灯を細かくコントロールすることができる特長を持った製品となっています。

*2010年10月現在(当社調べ)

社会とともに



環境トピックス

環境に配慮した事業活動

ウシオは地球環境との共生が企業としての最重要課題の一つであると認識しており、事業活動のあらゆる場面における環境保全への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。事業活動における環境負荷の低減への取り組みはもちろん、環境に貢献する製品の開発やサービスの提供にも注力しています。

●環境への貢献を図っている製品の一例

・UVランプやコンパクトな電源装置を活用した、バラスタンク内の水殺菌ユニット

世界中を運航する商船の平衡を維持するためのバラスタ装置。安全な航行に欠かせない反面、さまざまな毒性を持った外来の海洋微生物を、海域を越えて移動させてしまうことで、食物連鎖の崩壊など海洋生態系をかき乱してしまうという問題点を解決。



社会貢献トピックス

創業の地、姫路で「USHIO DAY 2016」を開催

2016年3月26日、USHIO PREMIUM THEATREのある映画館、アースシネマズ姫路様にて「USHIO DAY 2016」を開催しました。このイベントは、2014年に50周年を迎えたウシオ電機が「地元の皆さまに感謝の気持ちを伝えたい。そして、多くの方に映画の素晴らしさをお届けしたい」と思い企画したものです。

イベント当日は、地域の児童の皆さんや関係者を無料でご招待。「映画館で映画を初めて鑑賞した」「迫力があって楽しかった!」など、多くの感想をいただきました。そのほか、イベント中の特定映画の特別価格でのご提供、ランプ型キラキラリフレクターやエコバッグの作製などを行いました。





CSRトピックス

女性活躍推進

ウシオ電機では、先進国のビジネスが成熟化している中で新しいビジネスを生み出すには、多様な感性、考え方、能力が必要と考えています。近年では営業職・技術職における女性社員比率が数年前に比較し2倍以上に増加しています。

さらに2016年4月1日からは、人事制度で総合職・一般職の区分をなくし、また、管理職においても性別にとられない人材の登用を図ることで、2020年までに女性管理職を2016年3月期の3倍にすることを目標としています。



将来の幹部候補を育てる ヤング・エグゼクティブ・グループ

ウシオには、将来の経営人材の育成を目指すヤング・エグゼクティブ・グループ(YE)という制度があります。グループのメンバーは、ウシオグループに属する30歳前後の若手社員から公募を経て選定され、夢・戦略構築力・実行力・協働・グローバル対応力の5つを目標要件として、当社役員や外部の専門家の方々と意見を交わしながら、経営戦略などの理論習得と実際の経営課題に関する具体的な取り組みを行っています。

2016年9月2日には1期生22名の集大成となる活動発表会が開催され、1年半学んだ中での気づきや業務で実践したこと、各チームで取り組んできたことを発表しました。すでにYE2期生の活動もスタートしています。半年が経過し、高い志を持つ若手社員がこの制度で日々学んでいます。



株主さまとともに

Webサイトをリニューアルしました

今回のリニューアルは、ウシオの製品をより詳しく知っていただけるよう「製品情報の充実」と、目的の情報が探しやすいよう「導線の整備」・「検索機能の強化」に注力しました。また、新技術をご紹介する「新たな取り組み」、さらにお客さまへの情報提供として「カスタマーサポート」のページを設けました。「投資家情報」のページでは、オンラインアニュアルレポートも公開しています。ぜひご覧ください。

 <http://www.ushio.co.jp/>



株式の状況 (2016年9月30日現在)

発行済株式総数 139,628,721株

株主数 12,476名

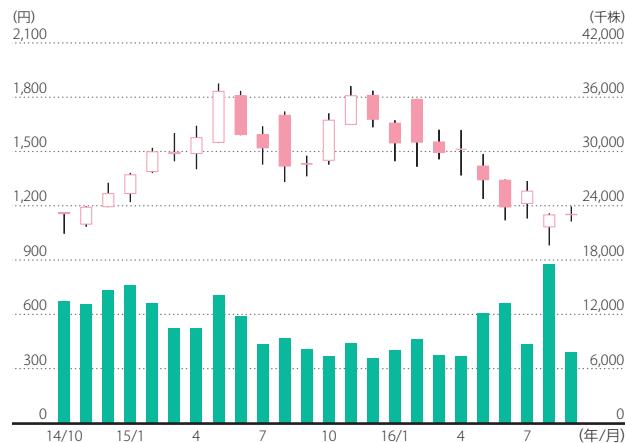
大株主の状況(200万株以上)

株主名	株式数 (千株)	持株比率
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,109	5.80%
株式会社りそな銀行	6,471	4.63%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	6,170	4.41%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.06%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	4,140	2.96%
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリユーエス タックス エグゼンプテッドベンションファンズ	3,910	2.80%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,495	2.50%
ジェーピー モルガン チェース バンク 385174	3,308	2.36%
朝日生命保険相互会社	3,305	2.36%
牛尾 治朗	3,136	2.24%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE - SSD00	2,978	2.13%
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505103	2,320	1.66%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505001	2,296	1.64%
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT - CLIENT ACCOUNT	2,285	1.63%

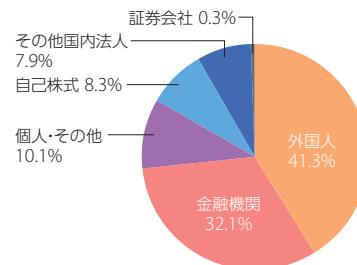
※上記のほか、当社が保有している自己株式が11,567千株あります。なお、自己株式11,567千株には、役員向け株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式299千株を含んでおりません。

※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株価の動き/株式売買高



株式の分布状況



■ 株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人
および特別口座
管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈郵便物送付先〉

〈電話照会先〉 **0120-782-031** (フリーダイヤル)

各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
<ul style="list-style-type: none"> 住所・氏名等の変更 単元未満株式の買取請求 配当金の受取方法の指定 相続 	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
<ul style="list-style-type: none"> 一般口座への振替 	—	
<ul style="list-style-type: none"> 支払期間経過後の配当金 		三井住友信託銀行

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行います。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員(2016年9月30日現在)

代表取締役会長	牛尾	治朗
代表取締役社長	浜島	健爾
取締役	牛尾	志朗
取締役	伴野	裕明
社外取締役	中前	忠
社外取締役	原	良也
社外取締役	金丸	恭文
社外取締役	服部	秀一
社外取締役	橘・フクシマ・咲江	
取締役 (常勤監査等委員)	小林	敦之
社外取締役 (監査等委員)	米田	正典
社外取締役 (監査等委員)	山口	伸淑

従業員数(2016年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,759名
国内グループ計	835名
海外グループ計	3,294名
合計	5,888名

グループ会社(2016年9月30日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社	
株式会社ジーベックス	
株式会社アドテックエンジニアリング	
株式会社プロトセラ	
ウシオオプトセミコンダクター株式会社	他6社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht- und Vakuumtechnik GmbH

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO ASIA PACIFIC PTE LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.

他27社

発行:ウシオ電機株式会社 経営企画部

〒100-8150 東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL: 03-5657-1007 FAX: 03-5657-1020

 <http://www.ushio.co.jp>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキを使用しています。